

令和元年度 第3回武蔵野市自転車等駐車対策協議会 議事要旨

日 時	令和元年 11 月 22 日（金）午後 2 時から午後 4 時 30 分まで
場 所	武蔵野市役所西棟 8 階 812 会議室
出席委員	11 名（欠席 4 名）

1 開会

2 議題

「武蔵野市自転車等総合計画」の改定について

冒頭、事務局から配布資料をもとに説明があった。

委員：意識調査であるアンケート調査の特性をいかして、例えば安全利用講習会に対する意識が高くないことなど、市民の意識から課題を読み取り、施策に生かしていけるとよい。

委員：アンケート結果では、定期利用の駐輪場を増やしてほしいという意見もあるが、現状を見ていると、むしろ減らしたほうがよいと思う。アンケート結果と実情が乖離している部分がある。実情がどうなのかというところもしっかりと押さえてほしい。また、整備目標台数について、三鷹駅北口では、駐輪場が不足しているという算出結果を示されているものの、放置自転車はなくなってきている。また、駐輪場を設置すれば新たな利用者を呼び込んでしまうこともあるので、駐輪場整備に投資するよりも、別の施策に投資していったほうがよい。武蔵野市は市外利用者が非常に多いが、市民利用者の目線で駐輪場の利用体系の再編の検討を進めてほしい。

委員：他の地域の事例を見ると、将来の自転車需要を推計するときに、駐輪場の一時利用者の移動経路を立ち寄り場所も含めてトリップチェーンとして把握しようとする動きも出てきている。ある自治体では、公的資金を投資して無料の駐輪場を整備したものの、有料の駐輪場を設置している隣接する自治体から自転車利用者を呼び込んでしまっている事例もある。アンケート調査などのデータだけでなく、現場の実情を踏まえて施策を検討していく必要がある。

委員：三鷹駅周辺、武蔵境駅周辺の実態はわからないが、吉祥寺駅周辺では、自転車を放置してはいけないという意識の利用者が多くいると感じて

いる。長期的な視点では、人口減少していくので整備する必要もなくなってくるかもしれない。駐輪場の利用体系の再編に関して、アンケート調査では、おおむね同意する意見が半数を超えているので、施策を進めいっても問題ない。

委員：駐輪場の整備について、商業活性化のために駐輪場を設置してほしいという人もいれば、バス利用者の中には駐輪場はいらないというような様々な意見がある。整備目標台数は、定める目標によって異なってくるのではないか。駐輪場をどこまで整備すればよいのかはわからないが、駐輪場を設置すれば新たに自転車呼び込んでしまうと考えている。

事務局：計画を策定した当初は放置自転車をなくすことが目標だった。一定程度の目標は必要であると考えている。駐輪場を設置できる用地がほとんどないので、次期計画期間では既存の駐輪スペースの活用も含め、民間との連携も図りながら、駐輪場の利用体系の再編に取り組んでいきたい。

委員：駐輪場利用者が減ってきているように感じている。一時利用者から定期利用スペースに空きがあるのになぜ停められないのかという不満のご意見をいただいたこともあり、定期利用スペースに空きがあることが課題である。アンケート調査結果にもあるように、定期利用スペースの利活用ができれば問題は解決するだろう。

委員：年間一定額を支払うことでバスに乗れるシルバーパスを利用すると年間の定期利用料金より大幅に安くなる場合もある。様々な駐輪場利用者の今後の自転車利用についてどのように考えているのかを読み取り、施策を検討していけるとよい。

委員：皆さんが発言しているように、駐輪需要は変わってきているのだろう。今後、社会情勢を踏まえた駐輪場の整備が求められてくるのではないか。

委員：自転車施策だけでなく、他の交通関連の計画との整合性を取りながら検討していく必要がある。自転車利用者を対象として、地域公共交通への転換を図っていくのであれば、高齢者、買い物利用者など様々な自転車利用者の中で、対象は誰なのか、どのように転換するのか具体的に考える必要がある。

委員：多くの自転車利用者を地域公共交通に転換していくには、吉祥寺駅や三鷹駅の駅前広場は混雑しており、バスの本数を増やすのが難しいため、駅前広場の再整備をしていく必要がある。再整備は、時間がかかるものなので、今後 10 年間には、地域交通と自転車利用の需要を踏まえ

て検討を進めていきたい。

委員：自転車と地域公共交通だけでなく、自転車と徒歩との関係も重要である。駐輪場を設置しすぎると、歩けるのに自転車に乗る人もいるだろう。

委員：単純に駐輪場を増やしていくのではなく、市民の様々な需要を可能な限り整理して取り組みを進めてほしい。

3 閉会